

【目次】

1. 日本労働会館が2016年度第3回理事会を開催、10月14日！
2. 労使関係研究協会が西原浩一郎氏を招き講演会を開催、10月25日！
3. 働く文化ネットの労働映画鑑賞会が開催される、10月13日！
4. 連載「日本労働会館物語」第62回—教育者・牧師・政治家の内ヶ崎作三郎 その2—

1. 日本労働会館が2016年度第3回理事会を開催、10月14日！

友愛労働歴史館の運営母体である一般財団法人・日本労働会館（小出幸男理事長）は、10月14日11：00から2016年度第3回理事会を開催しました。理事会は小出理事長の開会挨拶の後、事業報告に入り、友愛労働歴史館事業中間報告を間宮友愛労働歴史館事務局長が、労使関係研究協会事業中間報告を滑川労使研事務局長（日本労働会館常務理事）が、またホテル三田会館事業中間報告を兼次日本労働会館総務部長が、それぞれ行いました。この後、滑川常務理事が2016年度決算中間報告を行い、13時頃に閉会しました。

2. 労使関係研究協会が西原浩一郎氏を招き講演会を開催、10月25日！



友愛労働歴史館の兄弟組織である労使関係研究協会（小出幸男会長）は、10月25日（火）14時から第21回労働講座を開催しました。講師は日産労連会長などを務めた西原浩一郎氏（前金属労協議長）、テーマは「外資系企業における労使交渉の現実」。講演会には労使研の法人会員・個人会員を中心に約40名が参加しました。

講演で西原浩一郎氏は、2000年からスタートした「日産リバイバルプラン」（3か年の経営再建計画）に対する当時の日産労連の対応・取り組みについて報告を行いました。なお、講演内容はビデオで記録しています。講演の詳細は労使関係研究協会までお問合せください。

3. 働く文化ネットの労働映画鑑賞会が開催される、10月13日！

NPO法人・働く文化ネットの第32回労働映画鑑賞会は、10月13日（木）18：30～から連合会館会議室で開催されました。上映映画はドヤ街「横浜・寿町」に息づく多様な人生に向き合ったドキュメンタリー映画「どっこい！人間節—寿町・自由労働者の街」でした。なお、次回の労働映画鑑賞会（11月10日18時・連合会館）は、西陣と漆の職人を描いた短編映画2本です。

4. 連載「日本労働会館物語」第62回—教育者・牧師・政治家の内ヶ崎作三郎 その2—

今回の「日本労働会館物語」は、明治・大正・昭和（戦前）に教育者（早稲田大学教授）・牧師（統一基督教弘道会＝東京ユニテリアン教会、自由基督教会）・政治家（衆議院議員、民政党幹事長など）として活躍した内ヶ崎作三郎（1877～1947）の2回目です。

内ヶ崎作三郎（1877～1947）は1908（明治41）年10月、早大講師のまま英国オックスフォー

ドのマンチェスター・カレッジに宗教学研究のため3年間留学します。これは先に留学していた早大の先輩でユニテリアン教会の永井柳太郎（教育者・政治家）の誘いによるもので、同教会の安部磯雄・岸本能武太・佐治実然らが推薦状を書いています。マンチェスター・カレッジは英国ユニテリア派が運営しており、「真理・自由・進歩」を標榜していました。

内ヶ崎は2年の留学後、特に許され更に一年勉強し、1911（明治44）年に帰国しています。この間、彼は第8回基督教学生青年会（オックスフォード・明治42年7月）の日本代表、自由基督教万国大会（ベルリン・明治43年8月）の日本代表になっています。



1911年9月に帰国した内ヶ崎作三郎は、早稲田大学教授に就任し、英語講読や倫理などを担当。また、同月、東京ユニテリアン教会牧師に就任します。翌1912（明治45）年1月、内ヶ崎は「合同教会の理想」をめざして東京ユニテリアン教会の名称を統一基督教会に改称し、本格的に牧師活動をスタートします。この統一基督教会の伝道を担うのが統一基督教弘道会で、その会長には安部磯雄（早大教授、日本社会主義運動の父、日本野球の父）が就任しています。また、小山東助（内ヶ崎作三郎と同郷。後に政治家）・鈴木文治らが、内ヶ崎を助けるため本郷教会から統一基督教会に転籍。特に鈴木は教会職員となり、同年8月に友愛会（現連合）を創立することになります。

内ヶ崎作三郎は統一基督教会日曜学校での演説などに精力的に取り組み、また教会機関誌『六合雑誌』に多くの評論や和歌を発表しています（論文180編、和歌300首とされる）。また、『英国より祖国へ』、『近代人の信仰』、『人生日訓』など多くの著作を刊行しています。



内ヶ崎は1915（大正4）年、東京・神田に自由基督教会を設立します（写真は1933年の自由基督教会のタペ）。なぜ彼は自由基督教会を設立したのでしょうか。その理由について内ヶ崎は、『六合雑誌』第414号で「①東京北部に住む教会員の利便性（統一教会は東京南部・芝の地にあり遠い）、②日本人の宗教運動の経済的独立」とし、それにより「自由基督教は統一教会の外に新たな中心点を加ふるに至った」としています。

続けて「僕（内ヶ崎作三郎）の外に安部磯雄氏、岸本能武太氏、岡田哲蔵氏、相原一郎介氏等は毎月一度ぐらい自由基督教会においても統一教会に於いても講演」したとし、さらに「この教会は小さい試みである。然れども日本に於ける自由基督教の企てたる最初の試みである。即ち経済的に時には思想の方面にも独立を標榜した最初の計画である。」としています。

また彼は、「吾人の主義に賛成する人々は、東京南部の人々は統一教会に、北部の人々は自由基督教会に出席せられんことを希望する。」「新教会が自由基督教会と称したるはユニテリアン主義の人々の外に他の進歩主義基督教の人々をも網羅し得んがためである。」と説明しています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

惟一館から122年、友愛会から104年